

## 【国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計】

2月27日の本会議において予算特別委員会に付託されました議案第24号令和6年度中川村国民健康保険事業特別会計予算について、議案第25号令和6年度中川村介護保険事業特別会計予算について、議案第26号令和6年度中川村後期高齢者医療特別会計予算について、それぞれ、3月13日、役場第1・第2委員会室におきまして委員9名の出席の下、関係課長・係長に説明を求め慎重に審査を行いました。

審査の結果は、それぞれの特別会計予算は委員全員の賛成により議決すべきものと決しました。

審査の過程では国民健康保険事業特別会計予算および後期高齢者医療特別会計予算についての質疑、討論はありませんでした。以下、介護保険事業特別会計予算の質疑、討論について報告いたします。

### 【介護保険事業特別会計予算】

質問： 地域支援事業の中の新規で持続可能な介護事業を考える協議体運営支援というのがあるんですが、その具体的な内容について教えていただけますか。

回答： 総合事業と言って村独自のサービス介護保険の事業の中で展開しているんですけども、その事業も含めて、これから介護保険の全体の動きをどういうふうに維持していったらいいかっていう辺りを事業者の皆さんと自由な意見交換をしながら考えて、介護保険制度の中で展開している指定事業とは普通の村独自のサービスをどういうふうに作って維持していったらいいかということと一緒に考えていけたらいいかなというふうに思っております。共生社会とか地域包括ケアシステムの構築っていうところで専門職が展開できることっていうのは限られているので、人材も限られている中で専門職として担っていくんですけども、それ以外の部分を地域の皆さんと一緒にどういうふうに作っていったら、介護予防というところに取り組んでいけるのかっていう辺りを考えていく会を9期では行っていきたいと思っております。

質問： そうしますと介護予防っていうこともこの中には入っているということですね。

回答： 地域支援事業というか介護保険事業そのものが介護予防自立支援の取り組みになりますので、そこを考えていくということになります。

質問： 新しい事業で、フレイル判定システム導入ってあるんですけども、フレイルというのは、健常者から要介護の間ぐらいのことを言うと思うんですけども、それをこのシステムっていうのは結局質問をいくつかしてからそれで判定するのか、それともどういうシステムなのか、もしわかる範囲で教えてもらえればありがたいです。

**回答：** DX 推進の方からの紹介で取り入れる予定なんですけれども、厚生労働省の作成している介護予防基本チェックリストっていうものを 65 歳の方々全員に村の検診の通知と一緒に配布してあって、それを答えていただいて、それで本人のその生活の質の状況であったりとか身体機能の低下の状況であったりとかっていうようなものをチェックする 25 項目の質問の用紙というかがあるんですけれども、それを機械に取り込んで集計してくれて、それがあの経年的に比較していくことができるので、各活動の状況であったりとか自分自身のその身体機能の衰えであったりとかっていうものを経年的に評価していくことによって、それを予防事業に生かしていくためのツールになります。

**質問：** そうしますとですね、今のところ 45 ページの地域支援事業費ということで予防事業委託料が（フレイル予防 DX：トランスフォーメーション）125 万で、858 万になってるんですけども、予防委託料ってのはこれは違うんですよね。この表の中でね、これがフレイル予防 DX 含むだったんですけど、これどういう具体的になるのかイメージが湧かなくなったんで、教えてもらいたい。

**回答：** 事業費全体を載せてあってその中にこれも含まれるっていうことを一応挙げてはあるものなんですけれども。

**質問：** そうなるとですね、わかるんですけどその委託料の具体的な内容が、教えてもらいたいんですが予防事業委託あるじゃないですか。それが合計で 858 万になります。

この内容は何か。

**回答：** 総合事業の委託を社協にお願いしていることであったりとか、あと予防の専門職の派遣であったりとかっていう人件費の部分であったりとか、あとはシステムの委託料であったりとかっていうものが主な内容になります。

**質問：** そうしますと、これ相手は一つの企業っていうことになるんですか。委託先は。

**回答：** それぞれ事業の委託が、複数になります。

**委員長** フレイル以外は継続事業ということですね。

**回答：** はい

**質問：** 介護サービス給付費のホームヘルパーの減額は、居宅は減額になっているのか。

**回答：** なかなか国からの報酬改定の情報が今回なかなか早く入ってこなくて予算の編成のときに間に合っていたものもあったり、間に合っていなかったものもあったりし

て、完全には反映はできてない部分があります。一つ一つ細かく見ていく必要もあるんですけどやはり大きな中で見ていくというところでいつも予算編成をさせていただいてますので、必要に応じては補正で対応していきたいと考えてます。介護保険料に関してでもまだ国からも情報が来てなかったり、それこそ村の介護保険料も決まってない段階でしたので、そのままの金額でやっております。ですので必要な補正は6月以降補正で対応していきたいと考えてます。

**意見** よくわかりました。ホームヘルパーさんが減額されたという報道をされてますので、ホームヘルパーさんがやる気を無くさないようお願いしたいと思います。

**質問：** 持続可能な介護事業を考える協議体運営支援があるが、協議会って書いてあるんで、要するに協議組織だと思うんですがどういう組織が協議をするようになったのかそれを教えていただけますか。

**回答：** 介護保険の事業の中で協議体っていうのは組織化しないで自由に話ができるものっていうものになっていたので、一応介護保険の事業所の皆さん、いろんな立場の方の自由な意見交換の場っていうふうに一応考えております。

**質問：** ということは今現実に運営されてる組織の人たちが集まるっていうふうを考えていますか。利用者も含めて。

**回答：** 利用者を含めるっていうところまでは今はまだ考えられてはいないんですけども、この構想の中で1年目は介護保険の事業所の皆さんと話をして、そこから発展させて10期の計画に向けて準備ができていったらいいなっていうふうには思っております。

**質問：** 今のとこなんですけども、さらに持続可能になってほしい健康な体を維持してくっていうのが一番いいわけです。そのための例えばフィジカルトレーニングとかですね、そういうのをやってくれるのが必要だと思うんですよ。そういうのはこの中には今後考えていくっていうように考えられるのでしょうか。

**回答：** 先ほどのフレイルのはシステムもそうなんですけれども、ご自分自身の健康まず見ていただくっていうところからスタートして、そこから介護予防の取り組みをどういうふうにしていったらいいかっていうところを考えていただくっていうことの方角からが一つと、あとその協議体を開催する中で、今来てくださっている先ほども話題に出た予防事業の委託事業の中で専門職の皆さんに結構来ていただいているので、そういう方々と、こういうところが衰えてきている方たちに対して有効な教室はどういうふうにしていったらいいかっていうようなところも相談しながら、それを含めて事業を組み立てていけたらいいというふうを考えております。

**意見** 筋力はですね、80歳になっても筋力は全然ついてくので、その辺はしっかりと

ですね、入れ込んでいただけるようにそういうタイミングでいろいろ検討していただきたいというふうに思います。

**質問：** 介護予防とかをしている事業所の方からですね、90歳以上の方でまだ認知症とかではなくて、お元気な方も村内には結構いらっしゃると思うんだけど、そういう方たちの通い場というんですかね、いろいろやってますよね。何とかカフェとかそういうところにやっぱ足がとか、あと家族が気づいてあげないとなかなか繋がらないんじゃないかみたいなことおっしゃってたんですけども、そこら辺は介護予防というところに入ってくると思うんですが、その90歳以上ぐらいの方にそういうご案内とか、積極的にそういうところに行ってみませんかみたいなお声掛けっていうのは現段階ではされてるのでしょうか？

**回答：** していないわけではないんですけども、その基本チェックリストっていうものを、数年前までは、全戸配布して答えていただいて、そのチェックのついている方には全員訪問しなさいっていうふうに地域包括支援センターで全員訪問しなさい、アプローチしなさいっていうふうに言われていたんですけども、やっぱりそれがやっぱりどうしても人的な物と時間の関係でなかなか全員訪問ということができなくなったっていうところから総合事業が始まったときに、何かしらそういう相談とか情報が入ってきたところで地域包括支援センターが出向いて行ってそこでチェックリストをつけて、そこからその方の介護予防の取り組みと一緒に考えていくようにっていうふうに一応入口の相談の入口の部分が変わったっていう経過があるんです。今現在も本当だったらチェックリストもつけなくていいところなんですけれども、村としても何かしらのやっぱり評価指標がないといけないっていうところでその取り組みをして、帰ってきたときに目立つ方についてはこちらから訪問をさせていただくというようなこともしているんですけども、どうしてもやっぱり時間の制約がある中で全員っていうところは難しいし、全く声が上がってこないところに出向いて行ってというのはなかなか難しいので何かしらの情報が入ったところでは必ず入れるようにということとは心がけております。

**意見** なかなかその声が上がってくるところっていうのが、そこを捉えるのが簡単ではないと思うんですけども、やっぱその人的にもし足りてれば、もう少しできるということであればそこら辺も今後の予算の中とかでも検討して、いただけたらと思います。要望です。

**回答：** それこそ1人暮らしや2人暮らしの高齢者の世帯だと民生委員さんが訪問してます。月1回でするのでそんな民生委員さんであったり、あとケアマネであったり包括の職員であったり保健師であったり、何かしらどこかの家庭には誰かがいてるというようなイメージを私は勝手に持っていて、必ずどこかでは繋がれるような体制は

これからもきちっと作っていきたいと思いますので、そこでやっぱり誰もが通ってこれるような通いやすいような場所ってというのは今とても課題にもなっているところがありますので、力を入れてまた整備をしていきたいと思います。

それでは介護保険事業特別会計の予算を承認される方の挙手をお願いします。  
はい、全員賛成です。では介護保険事業特別会計については承認されました。